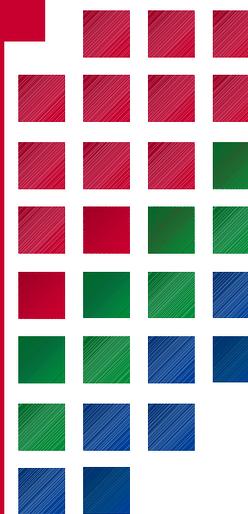


2024年3月期第3四半期 決算の概要

2024年 2月 14日



日本郵政グループ 決算の概要

■ 2024年3月期 第3四半期（累計）の経営成績

（億円）

	日本郵政グループ			
	日本郵便	ゆうちょ銀行	かんぽ生命	
経常収益	84,326	24,987	19,341	45,607
前年同期比	+ 208 (+ 0.2%)	△ 1,434 (△ 5.4%)	+ 3,834 (+ 24.7%)	△ 2,372 (△ 4.9%)
経常利益	5,203	238	3,670	1,254
前年同期比	△ 134 (△ 2.5%)	△ 803 (△ 77.1%)	+ 227 (+ 6.6%)	+ 466 (+ 59.2%)
四半期純利益	2,219	248	2,633	651
前年同期比	△ 1,543(※) (△ 41.0%)	△ 670 (△ 73.0%)	+ 158 (+ 6.4%)	△ 110 (△ 14.5%)

※：日本郵政が保有しているゆうちょ銀行株式の売却(2023年3月)に伴う持分比率の低下(89%→61.5%)の影響が含まれている。

■ 2024年3月期 通期業績予想

経常利益	6,200	150	4,700	1,400
(3Q進捗率)	(83.9%)	(158.8%)	(78.0%)	(89.6%)
当期純利益	2,400	70	3,350	720
(3Q進捗率)	(92.5%)	(354.5%)	(78.6%)	(90.5%)

注1：億円未満の決算数値は切捨て。また、日本郵政グループ数値と各社数値の合算値は、他の連結処理(持株会社・その他子会社の合算、グループ内取引消去等)があるため一致しない。

注2：日本郵政グループの四半期純利益の算出で使用する各社の持分比率は、日本郵便100%、ゆうちょ銀行61.5%、かんぽ生命49.8%。

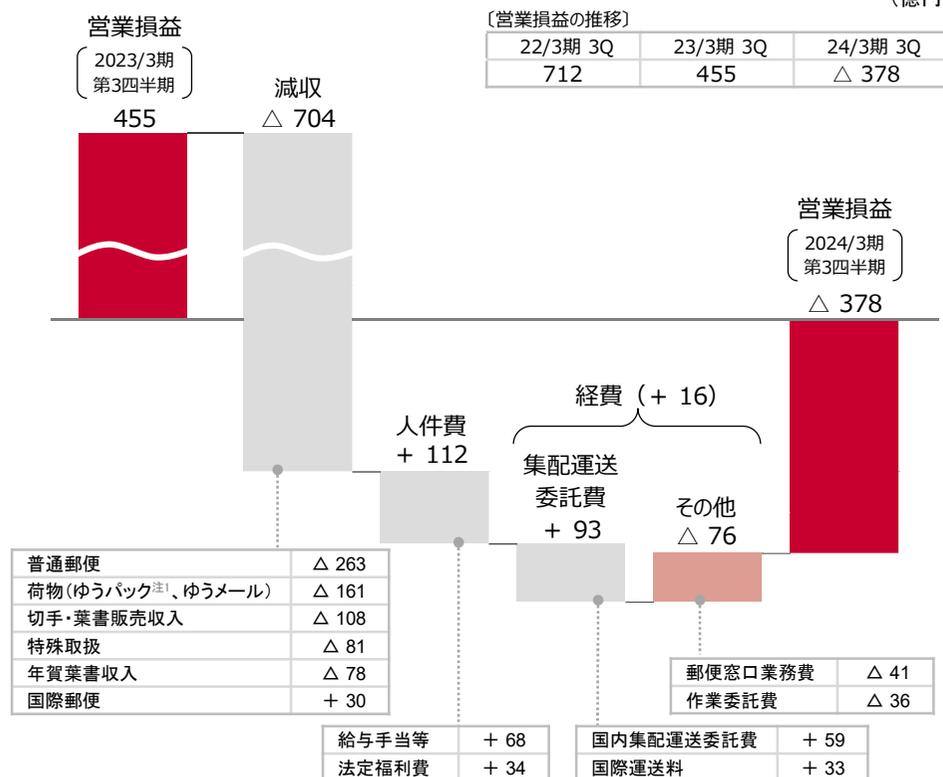
注3：各社の数値は、各社を親会社とする連結決算ベース。また、「四半期純利益」「当期純利益」は、「親会社株主に帰属する四半期純利益」及び「親会社株主に帰属する当期純利益」の数値。

郵便・物流事業 決算の概要

- 取扱数量は、総計で5.5%減。郵便は4.9%減、ゆうメールは10.6%減。ゆうパック^{注1}はゆうパケットの取扱数量の増加により2.1%増（うち、ゆうパケットは7.5%増）。
- 営業収益は、郵便や荷物の減収のほか年賀葉書の減収もあり、前年同期比704億円（4.5%）の減収。
- 営業費用は、コストコントロールの取組等を進めているものの、人件費の増加や集配運送委託費の増加等により129億円（0.9%）増加し、営業損益は378億円の赤字を計上（前年同期比833億円減）。

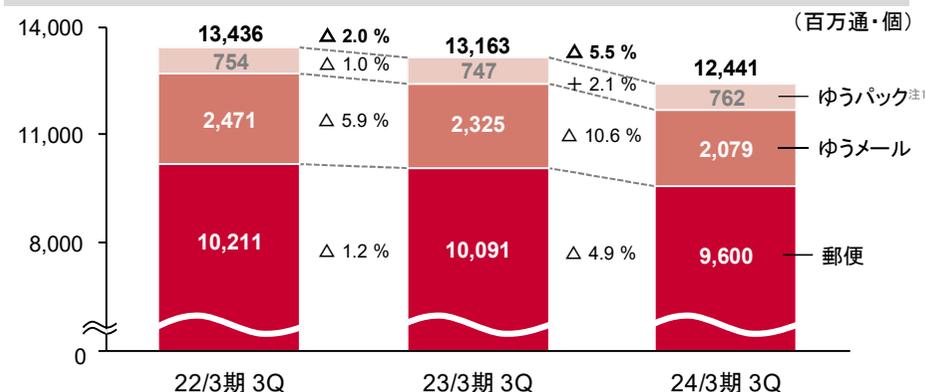
営業損益の増減分析(前年同期比)

(億円)



取扱数量の推移

(百万通・個)



当第3四半期(累計)の経営成績

(億円)

	2024/3期 第3四半期	2023/3期 第3四半期	増減
営業収益	14,825	15,529	△ 704
営業費用	15,203	15,074	+ 129
人件費	9,456	9,344	+ 112
経費	5,747	5,730	+ 16
営業損益	△ 378	455	△ 833

注1: 「ゆうパック」には、ゆうパケットを含む。

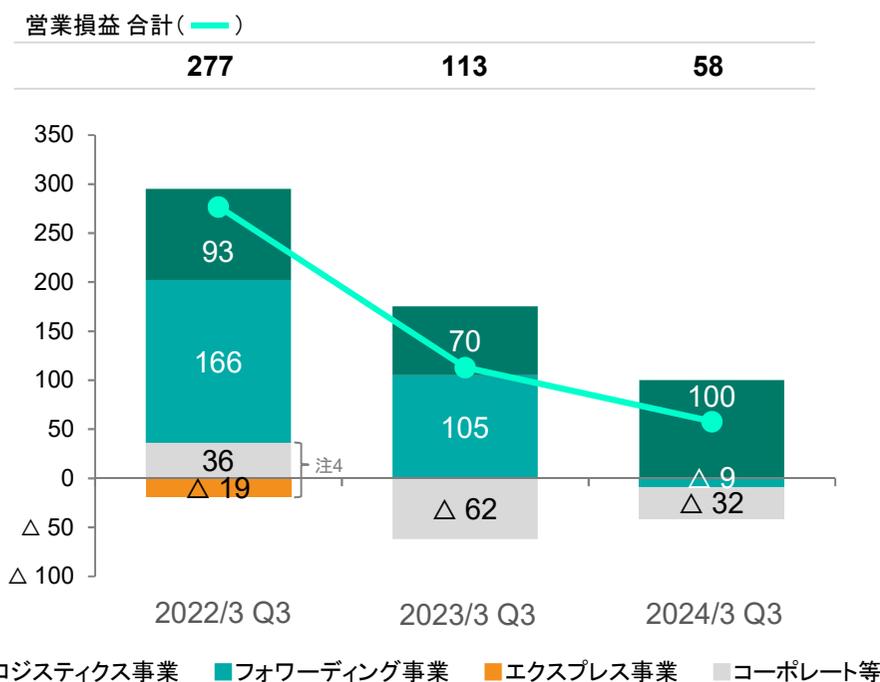
注2: 2024/3期からJPロジスティクスグループ社及びJPロジスティクス社のセグメントを「国際物流事業」から「郵便・物流事業」に変更。併せて2023/3期の数値を組替え。

国際物流事業 決算の概要

- 営業収益は、ロジスティクス事業の収益は概ね前年同期並みであったものの、フォワーディング事業の貨物運賃下落等による減収により、前年同期比1,071百万豪ドル（23.3%）の減収。
- 営業費用は、フォワーディング事業の減収見合いの費用減のほか、ロジスティクス事業のコスト削減等により減少したものの、全体では前年同期比1,016百万豪ドル（22.6%）の減少と減収額を下回り、営業損益（EBIT）は前年同期比55百万豪ドル（48.9%）の減益。

事業別の営業損益(EBIT)の推移

(百万豪ドル)



当第3四半期(累計)の経営成績

(百万豪ドル、下段括弧内は億円)

	2024/3期 第3四半期	2023/3期 第3四半期	増減
営業収益	3,537 (3,333)	4,609 (4,301)	△ 1,071 (△ 968)
営業費用	3,479 (3,278)	4,495 (4,195)	△ 1,016 (△ 917)
人件費	996 (939)	1,055 (985)	△ 58 (△ 45)
経費	2,482 (2,339)	3,440 (3,210)	△ 957 (△ 871)
営業損益(EBIT)	58 (54)	113 (105)	△ 55 (△ 51)

注1：2022/3期の営業収益、営業費用及び営業損益(EBIT)は、トール社、JPロジスティクスグループ社及びJPロジスティクス社の数値の合計額。なお、2024/3期からJPロジスティクスグループ社及びJPロジスティクス社のセグメントを「郵便・物流事業」に変更したことに伴い、2024/3期及び2023/3期の営業収益、営業費用及び営業損益(EBIT)は、トール社のみ数値。

注2：2023/3期のセグメント間の一部事業の組替えに併せて、グラフの2022/3期の数値を組替え(全体合計額は一致)。

注3：表の下段括弧内は期中平均レート(2024/3期第3四半期 94.23円/豪ドル、2023/3期第3四半期 93.33円/豪ドル)での円換算額。

注4：エクスプレス事業の2022/3期第3四半期の営業損益(EBIT)には、IFRSに基づき停止した減価償却費を計上(これに伴う影響はコーポレート等で取消)。

日本郵便（連結）決算の概要

- 営業収益は、前年同期比1,401億円（5.3%）の減収（為替影響による41億円増を含む）。
- 営業利益は、郵便局窓口事業が増益となったものの、郵便・物流事業及び国際物流事業の減益により、前年同期比784億円（73.2%）減の287億円。経常利益は、803億円（77.1%）減の238億円、四半期純利益は、前年同期比670億円（73.0%）減の248億円。

四半期純利益の増減分析(前年同期比)

〔営業利益の推移〕

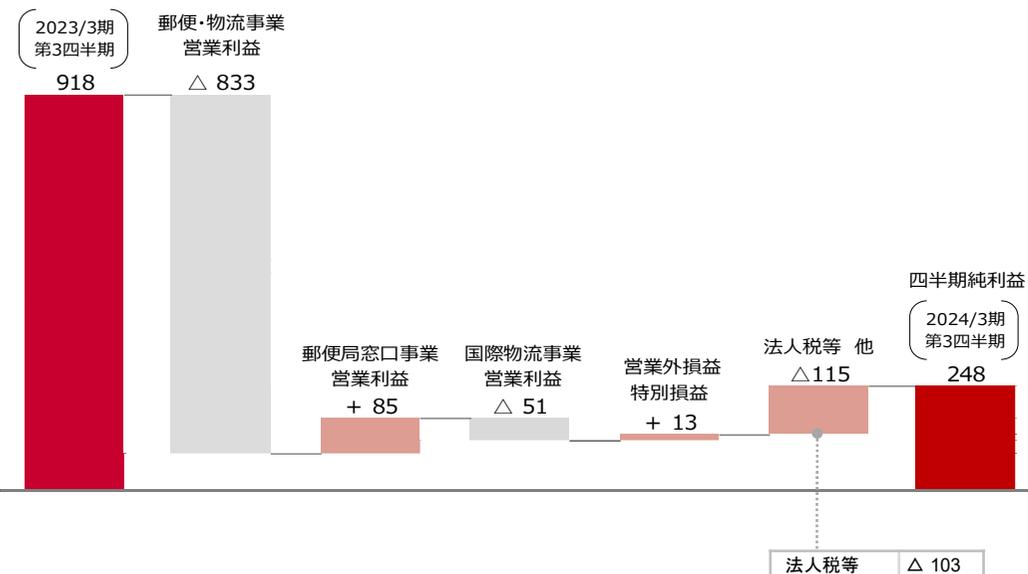
22/3期 3Q	23/3期 3Q	24/3期 3Q
1,194	1,072	287

〔四半期純利益の推移〕

22/3期 3Q	23/3期 3Q	24/3期 3Q
851	918	248

(億円)

四半期純利益



当第3四半期(累計)の経営成績

(億円)

	2024/3期 第3四半期	2023/3期 第3四半期	増減
営業収益	24,949	26,351	△ 1,401
営業費用	24,661	25,278	△ 617
人件費	15,745	15,771	△ 26
経費	8,915	9,507	△ 591
営業利益	287	1,072	△ 784
経常利益	238	1,041	△ 803
特別損益	76	44	+ 31
税引前四半期純利益	314	1,085	△ 771
四半期純利益	248	918	△ 670

注：2024/3期からJPロジスティクスグループ社及びJPロジスティクス社のセグメントを「国際物流事業」から「郵便・物流事業」に変更。併せて2023/3期の数値を組替え。

ゆうちょ銀行（連結） 決算の概要

当第3四半期(累計)の経営成績(連結)

(億円)

	2024/3期 第3四半期	2023/3期 第3四半期	増減
連結粗利益	5,609	8,732	△ 3,123
資金利益	5,422	6,134	△ 711
役務取引等利益	1,180	1,142	+ 38
その他業務利益	△ 993	1,456	△ 2,450
うち外国為替売買損益	△ 810	2,327	△ 3,137
うち国債等債券損益	△ 137	△ 872	+ 735
経費 (臨時処理分を除く)	7,004	6,963	+ 40
一般貸倒引当金繰入額	0	0	+ 0
連結業務純益	△ 1,395	1,768	△ 3,164
臨時損益	5,065	1,674	+ 3,391
経常利益	3,670	3,443	+ 227
四半期純利益	2,633	2,474	+ 158

概要

- 連結粗利益
資金利益は、外貨調達コストの増加等により、前年同期比711億円の減少。
役務取引等利益は、前年同期比38億円の増加。
その他業務利益は、外国為替売買損益の減少により、前年同期比2,450億円の減少。
- 経費
物件費の増加により、前年同期比40億円の増加。
- 臨時損益
プライベートエクイティファンド、不動産ファンドからの収益下支えに加え、株式のリスク調整オペレーションに伴う売却益の増加により、前年同期比3,391億円の増加。
- 四半期純利益
通期業績予想3,350億円に対する進捗率78.6%

(参考注)

(%)

	2024/3期 第3四半期	2023/3期 第3四半期	増減
ROE (株主資本ベース)	3.69	3.47	+ 0.21
OHR (金銭の信託運用損益等を含むベース)	65.86	67.08	△ 1.22

注：(ゆうちょ銀行)中期経営計画(2021年度～2025年度)の財務目標の算出ベース

・ROE＝四半期純利益／[(期首株主資本＋期末株主資本)／2]×100

・OHR＝経費／(資金収支等＋役務取引等利益)×100

資金収支等とは、資金運用に係る収益から資金調達に係る費用を除いたもの(売却損益等を含む)。

なお、ROE・OHRは、第3四半期時点の計数をもとに算出した結果であり、通期の指標を示すものではない。

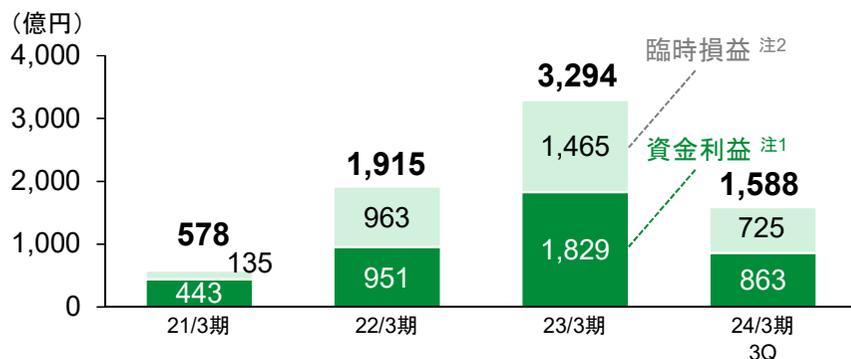
ゆうちょ銀行（単体） 資金利益の内訳等

資金利益の内訳

(億円)

	2024/3期 第3四半期	2023/3期 第3四半期	増減
資金利益	5,418	6,019	△ 600
資金運用収益	10,399	9,062	+ 1,337
うち国債利息	1,398	1,864	△ 466
うち外国証券利息	8,311	6,608	+ 1,702
うち戦略投資領域 注1	863	1,505	△ 642
資金調達費用	4,981	3,043	+ 1,938

【参考：戦略投資領域(※)に係る損益の推移】



◆ 戦略投資領域に係る損益は、資金利益に加え臨時損益にも貢献。

※ 戦略投資領域には、プライベートエクイティファンド(以下「PE」)、不動産ファンド(エクイティ・デット)、ダイレクトレンディングファンド、インフラデットファンド等を含む。

注1: 資金利益には、PE(利益分配)、不動産ファンド(デット)等に係る損益を含む。

注2: 臨時損益には、PE(償還損益)、不動産ファンド(エクイティ・デット)等に係る損益を含む。

役務取引等利益の内訳

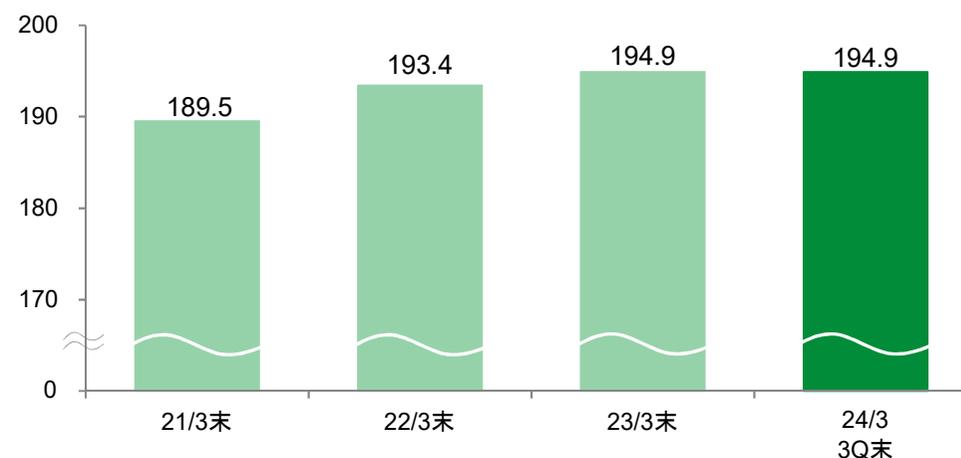
(億円)

	2024/3期 第3四半期	2023/3期 第3四半期	増減
役務取引等利益	1,170	1,132	+ 37
為替・決済関連手数料	697	711	△ 13
ATM関連手数料	283	250	+ 33
投資信託関連手数料 注3	89	90	△ 1
その他	100	80	+ 20

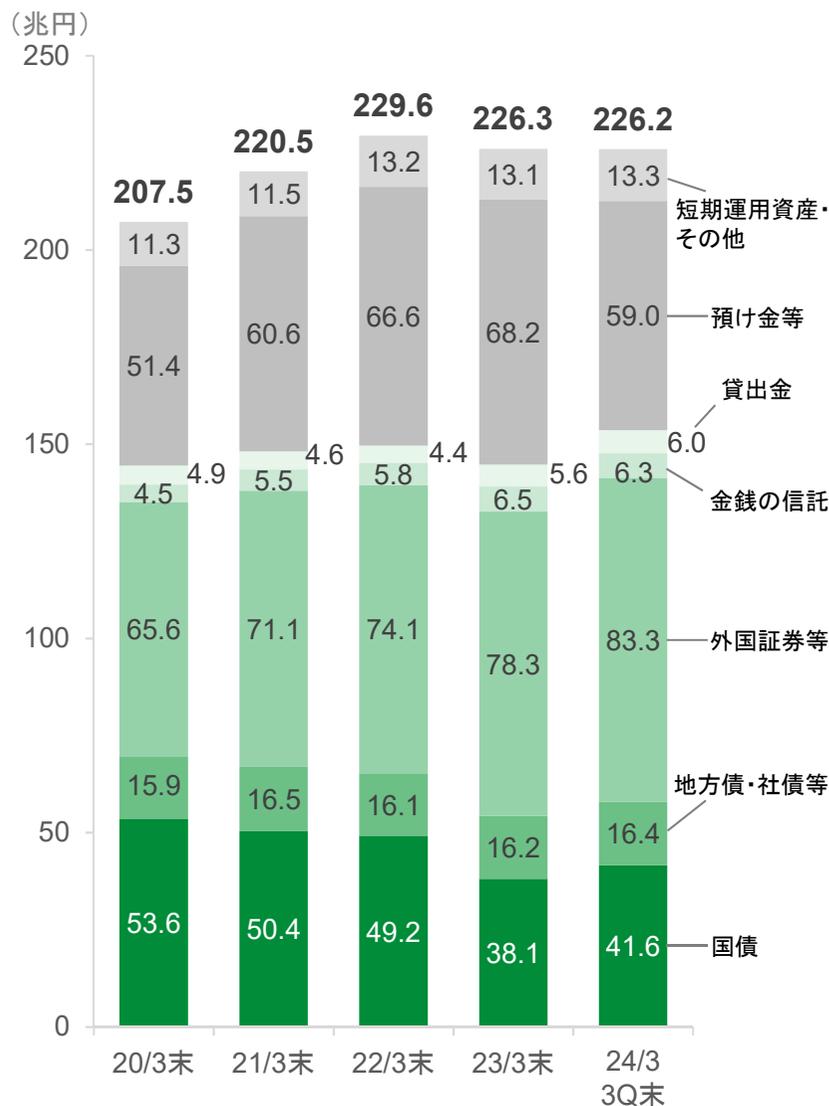
注3: ゆうちょファンドラップ(投資一任サービス)を含む。

貯金残高

(兆円)



ゆうちょ銀行（単体） 資産運用の状況



(億円)

	2024/3期 第3四半期	構成比 (%)	2023/3期	構成比 (%)	増減
有価証券	1,414,379	62.5	1,327,694	58.6	+ 86,685
国債	416,307	18.3	381,147	16.8	+ 35,160
地方債・社債等 ^{注1}	164,601	7.2	162,974	7.1	+ 1,627
外国証券等	833,470	36.8	783,572	34.6	+ 49,897
うち外国債券	280,188	12.3	261,390	11.5	+ 18,798
うち投資信託 ^{注2}	552,003	24.3	521,102	23.0	+ 30,901
金銭の信託	63,954	2.8	65,647	2.8	△ 1,693
うち国内株式	13,248	0.5	18,576	0.8	△ 5,327
貸出金	60,078	2.6	56,043	2.4	+ 4,034
預け金等 ^{注3}	590,845	26.1	682,835	30.1	△ 91,990
短期運用資産・その他 ^{注4}	133,710	5.9	131,583	5.8	+ 2,126
運用資産合計	2,262,967	100.0	2,263,804	100.0	△ 837

注1: 「地方債・社債等」は地方債、短期社債、社債、株式。
 注2: 投資信託の投資対象は主として外国債券。プライベートエクイティファンド等を含む。
 注3: 「預け金等」は譲渡性預け金、日銀預け金、買入金銭債権。
 注4: 「短期運用資産・その他」はコールローン、買現先勘定等。

当第3四半期(累計)の経営成績(連結)

(億円)

	2024/3期 第3四半期	2023/3期 第3四半期	増減
経常収益	45,607	47,980	△ 2,372
経常費用	44,353	47,192	△ 2,839
経常利益	1,254	787	+ 466
特別損益	155	728	△ 573
価格変動準備金 戻入額 ^{注1}	156	730	△ 574
契約者配当準備金 繰入額	481	437	+ 44
四半期純利益	651	762	△ 110
個人保険 新契約 年換算保険料	659	496	+ 163

	2024/3期 第3四半期	2023/3期	増減
個人保険 保有契約 年換算保険料 ^{注2}	30,184	32,176	△ 1,992

注1: 符号がプラスの場合は戻入を、マイナス(△)の場合は繰入を示す。

注2: 保有契約は簡易生命保険の保険契約を含む。簡易生命保険の保険契約は、独立行政法人郵便貯金簡易生命保険管理・郵便局ネットワーク支援機構から受再している簡易生命保険の保険契約をいう。

注3: 第三分野の新契約及び保有契約年換算保険料の数値は、P10「保険契約の状況」を参照。

概要

- 保有契約の減少が続く中、新型コロナウイルス感染症に係る保険金支払の減少等により、基礎利益が増加。加えてキャピタル損益の大幅な改善により、経常利益は前年同期比466億円増の1,254億円。
- 上記のキャピタル損益(投資信託の解約益を除く)等については価格変動準備金により中立化され、四半期純利益は前年同期比110億円減の651億円。
- 新契約年換算保険料は、個人保険・第三分野ともに前年同期比で増加。^{注3}
- 保有契約年換算保険料は、個人保険・第三分野ともに前期末比で減少。^{注2、注3}

(参考) 経常利益の内訳(単体)

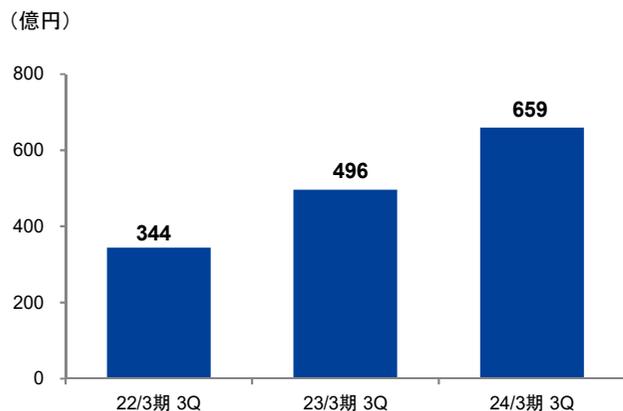
(億円)

	2024/3期 第3四半期	2023/3期 第3四半期	増減
基礎利益	1,697	1,349	+ 348
キャピタル損益	65	△ 592	+ 658
臨時損益	△ 502	24	△ 527
経常利益	1,260	781	+ 479

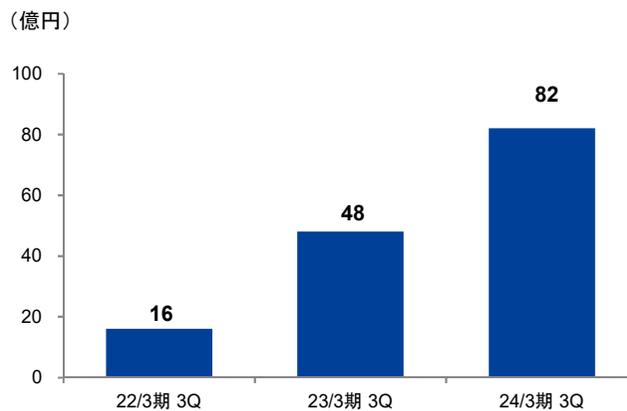
かんぽ生命 保険契約の状況

新契約

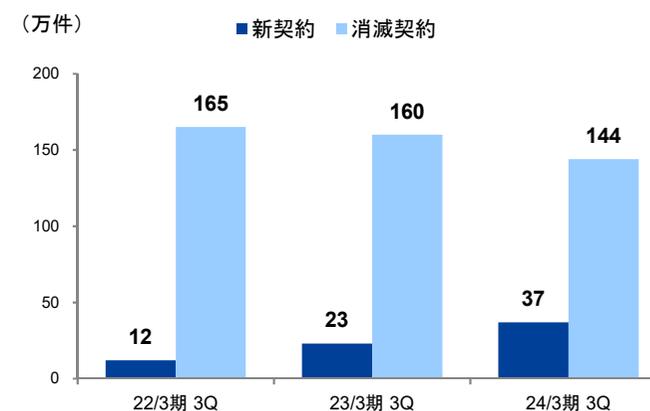
新契約年換算保険料（個人保険）



新契約年換算保険料（第三分野）

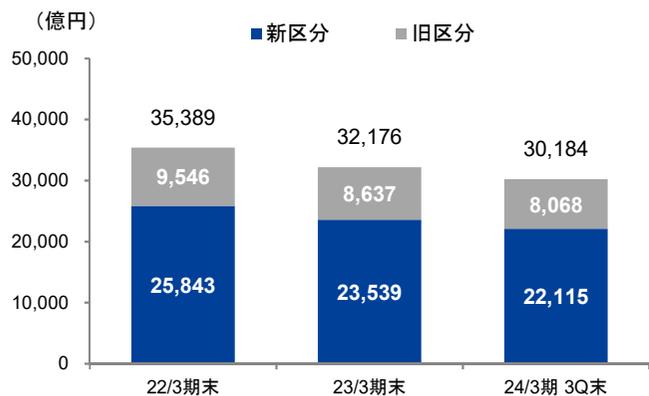


新契約・消滅契約件数（個人保険）

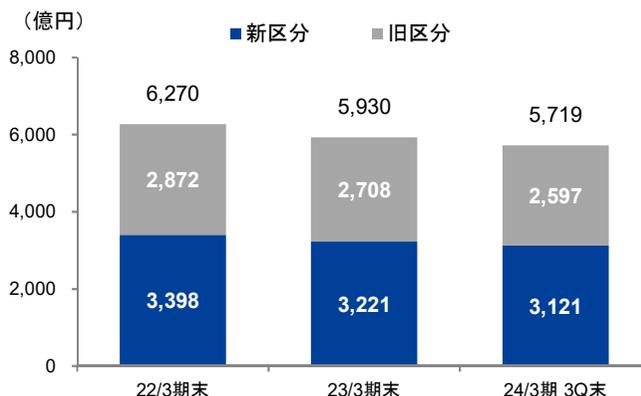


保有契約

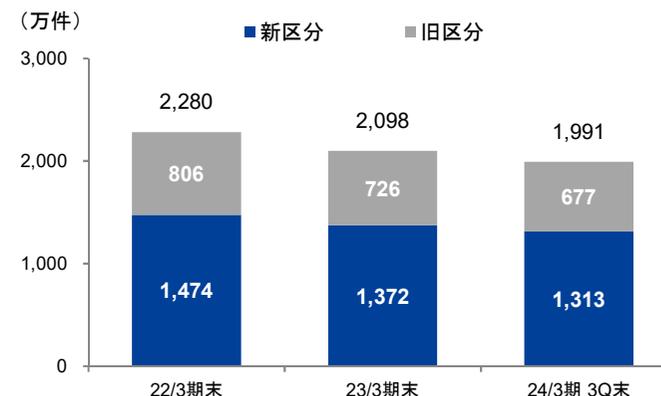
保有契約年換算保険料（個人保険）



保有契約年換算保険料（第三分野）



保有契約件数（個人保険）



注1: 年換算保険料は億円未満、契約件数は万件未満を切捨て。

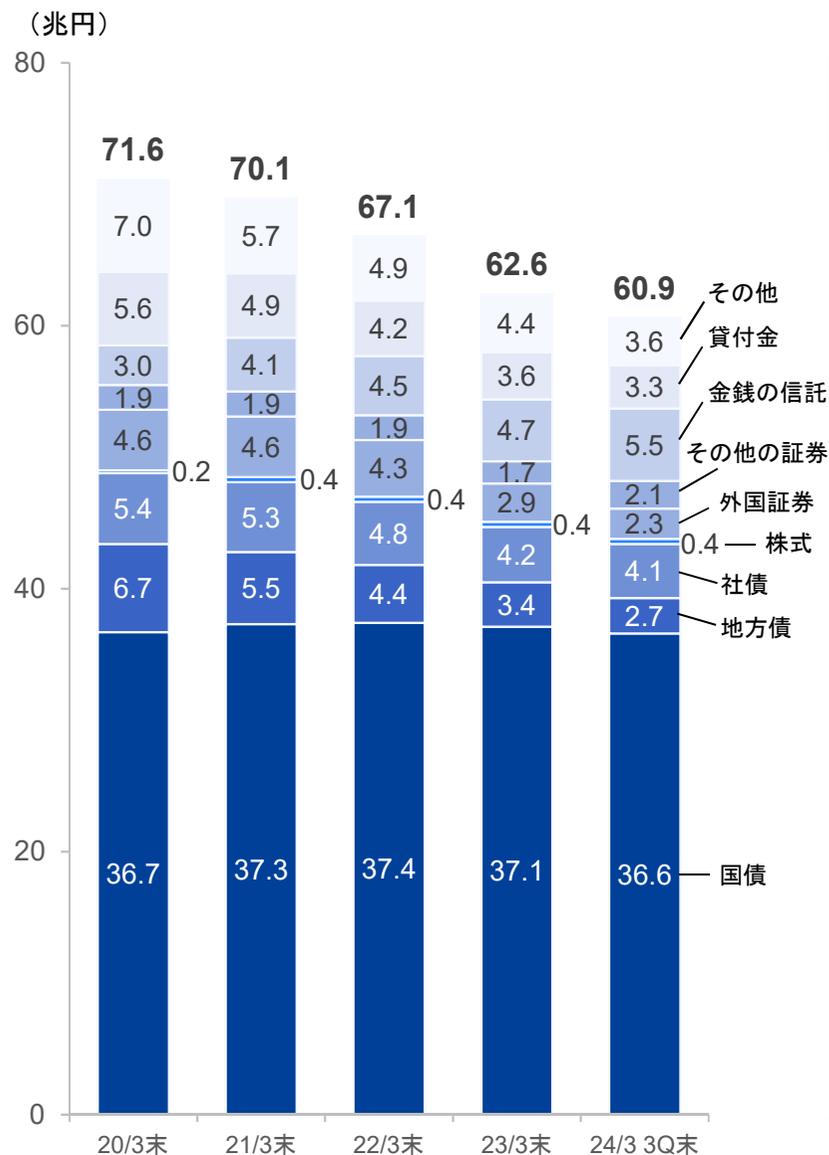
注2: 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額（一時払契約等は、保険料を保険期間等で除した金額）。

年換算保険料（個人保険）は個人保険に係る第三分野を含み、年換算保険料（第三分野）は個人保険と個人年金保険に係る第三分野の合計値。

注3: 「新区分」は、かんぽ生命保険が引受けた個人保険を示し、「旧区分」は、かんぽ生命保険が独立行政法人郵便貯金簡易生命保険管理・郵便局ネットワーク支援機構から受再している簡易生命保険契約（保険）を示す。

注4: 消滅契約とは、死亡・満期・解約・失効等により消滅した契約であり、「新区分」および「旧区分」の合計値。

かんぽ生命 資産運用の状況

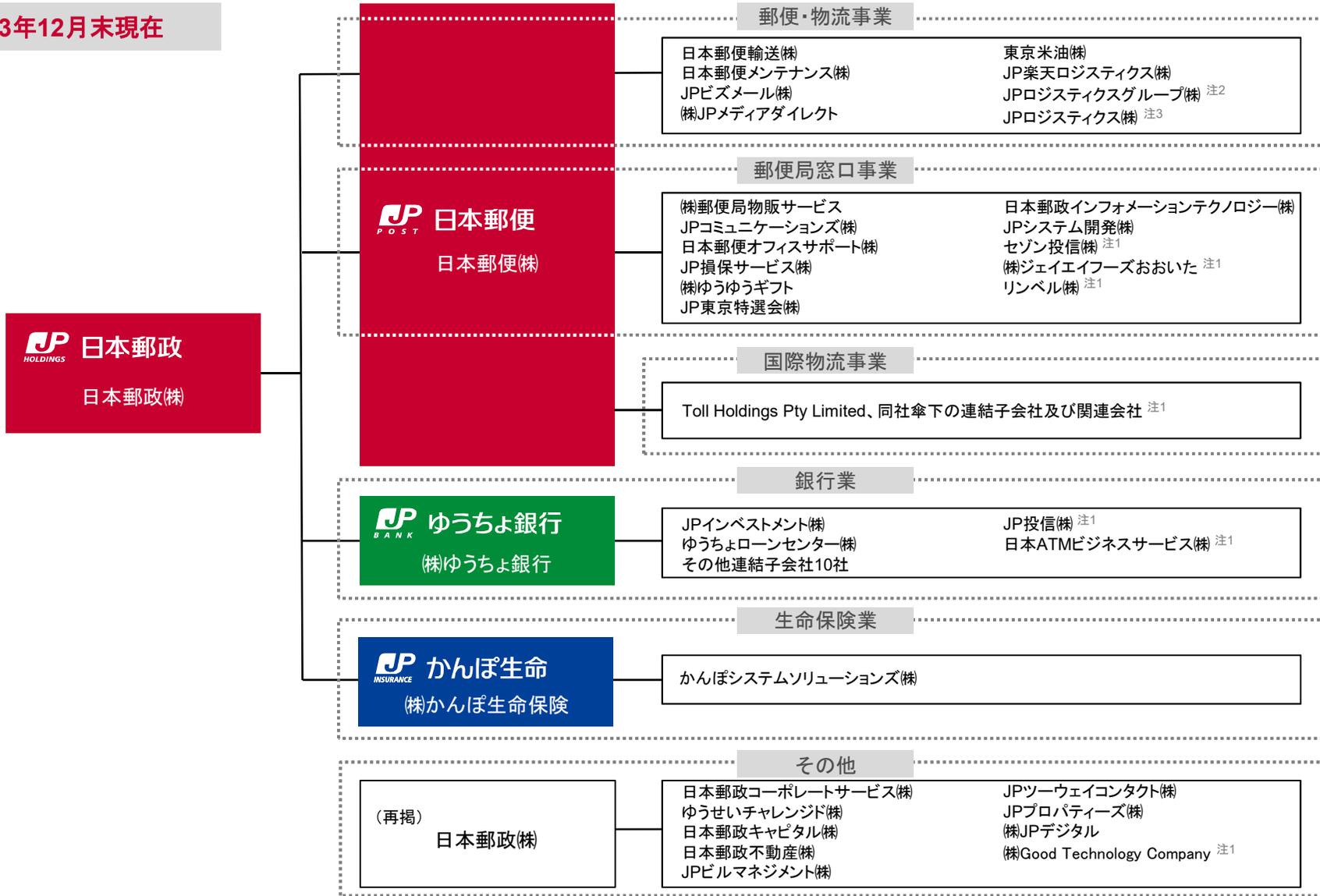


(億円)

	2024/3期 第3四半期	構成比 (%)	2023/3期	構成比 (%)	増減
有価証券	484,998	79.5	498,414	79.5	△ 13,416
国債	366,884	60.2	371,146	59.2	△ 4,261
地方債	27,531	4.5	34,001	5.4	△ 6,469
社債	41,122	6.7	42,289	6.7	△ 1,167
株式	4,818	0.8	4,091	0.7	+ 727
外国証券	23,574	3.9	29,492	4.7	△ 5,918
その他の証券	21,067	3.5	17,394	2.8	+ 3,673
金銭の信託	55,047	9.0	47,723	7.6	+ 7,324
うち国内株式	26,409	4.3	22,880	3.6	+ 3,528
貸付金	33,044	5.4	36,058	5.8	△ 3,014
その他	36,766	6.0	44,677	7.1	△ 7,910
総資産	609,857	100.0	626,873	100.0	△ 17,016

〔参考1〕 グループ会社関係図

2023年12月末現在



注1: 持分法適用関連会社

注2: 2023年4月1日付でJP トールロジスティクス(株)から商号変更

注3: 2023年4月1日付でトールエクスプレスジャパン(株)から商号変更

〔参考2〕 日本郵便(連結) 損益計算書 四半期(3か月)単位

(億円)

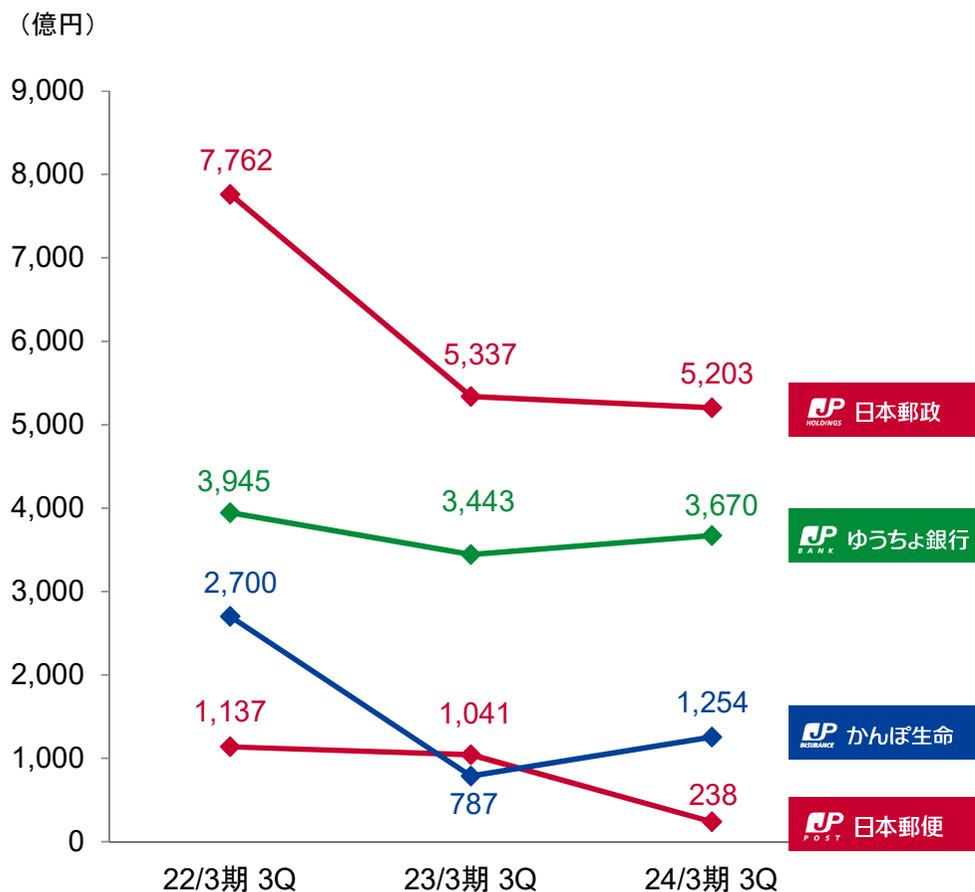
	2024/3期			2023/3期			2024/3期			2023/3期		
	1Q(4~6月)	1Q(4~6月)	増減	2Q(7~9月)	2Q(7~9月)	増減	3Q(10~12月)	3Q(10~12月)	増減	3Q(10~12月)	3Q(10~12月)	増減
連 結	営業収益	8,014	8,535	△ 521	7,784	8,479	△ 695	9,150	9,335	△ 185		
	営業費用	7,918	8,268	△ 349	8,082	8,396	△ 314	8,661	8,614	+ 47		
	人件費	5,200	5,206	△ 5	5,212	5,223	△ 11	5,332	5,342	△ 9		
	経費	2,717	3,062	△ 344	2,869	3,173	△ 303	3,328	3,272	+ 56		
	営業損益	96	267	△ 171	△ 298	82	△ 380	489	721	△ 232		
郵便・ 物流事業	営業収益	4,829	4,895	△ 65	4,586	4,864	△ 278	5,409	5,769	△ 359		
	営業費用	4,899	4,855	+ 44	5,023	4,967	+ 56	5,280	5,251	+ 28		
	人件費	3,093	3,078	+ 14	3,133	3,078	+ 55	3,230	3,186	+ 43		
	経費	1,805	1,776	+ 29	1,890	1,889	+ 1	2,050	2,064	△ 14		
	営業損益	△ 69	40	△ 110	△ 437	△ 102	△ 334	129	518	△ 388		
郵便局 窓口事業	営業収益	2,677	2,696	△ 18	2,623	2,682	△ 59	3,097	2,783	+ 314		
	営業費用	2,503	2,488	+ 14	2,492	2,518	△ 26	2,741	2,580	+ 161		
	人件費	1,797	1,805	△ 8	1,771	1,813	△ 42	1,780	1,823	△ 43		
	経費	705	682	+ 22	720	704	+ 16	961	756	+ 204		
	営業利益	173	207	△ 33	130	164	△ 33	356	203	+ 152		
国際 物流事業	営業収益	1,035	1,471	△ 436	1,094	1,463	△ 368	1,203	1,367	△ 164		
	営業費用	1,026	1,430	△ 403	1,068	1,422	△ 353	1,183	1,343	△ 159		
	人件費	309	321	△ 11	308	332	△ 23	321	331	△ 9		
	経費	717	1,109	△ 391	760	1,089	△ 329	861	1,011	△ 149		
	営業利益	8	40	△ 32	26	40	△ 14	19	24	△ 4		

注1: 国際物流事業の2Q(7~9月)及び3Q(10~12月)数値は、それぞれ期末時点の累計値の円換算額(同期間平均レートで換算)から前四半期末の累計値の円換算額(同期間平均レートで換算)を差し引いて算出。

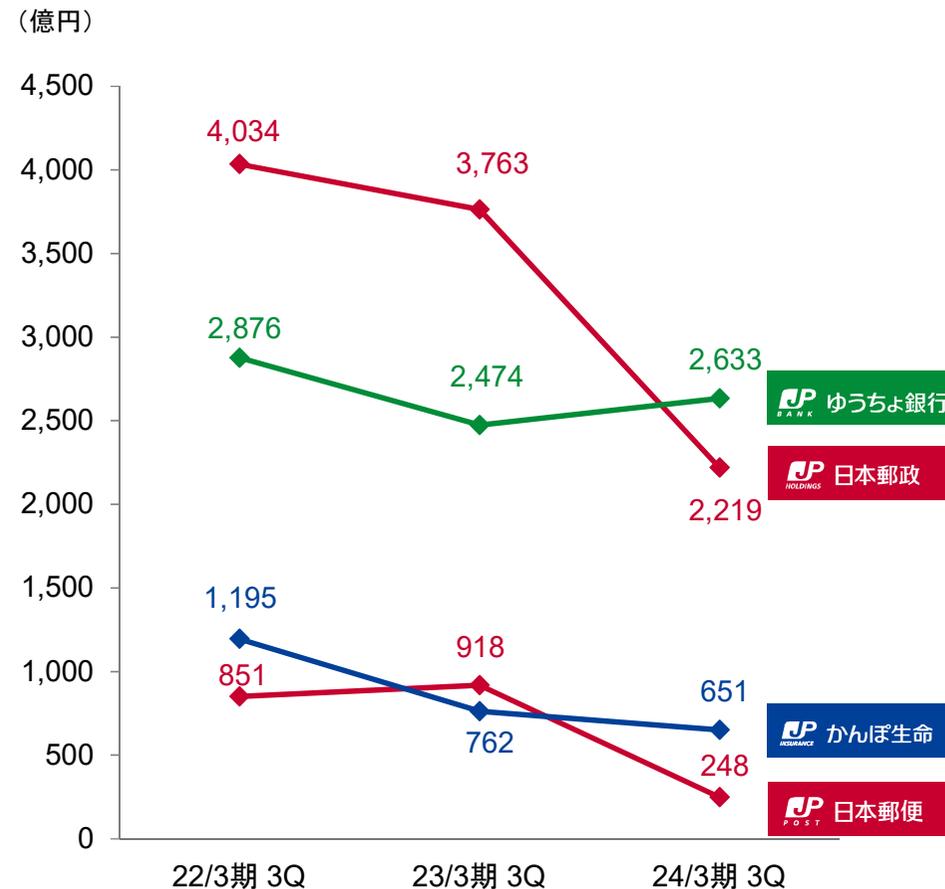
注2: 2024/3期からJPロジスティクスグループ社及びJPロジスティクス社のセグメントを「国際物流事業」から「郵便・物流事業」に変更。併せて2023/3期の数値を組替え。

〔参考3〕 経常利益・四半期純利益の推移

経常利益の推移



四半期純利益の推移



本資料に記載されている通期業績予想等将来に関する記述は、当社が現在把握している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその達成を約束するものではありません。実際の業績等は、国内外の金融政策の変更や景気変動、競争条件の変化、大規模災害等の発生、法規制の変更等様々な要因により大きく異なる可能性があります。